

静岡県の貝類  
多数のウキツノガイの漂着  
高山壽彦



ウキツノガイ。三保真崎灯台付近で採集

2019年の秋、台風15号の去った後の9月9日の早朝、三保真崎灯台付近で、漂着した貝類を採集してきました。この朝には、これまでになく、ウキツノガイ（腹足類、真後鰓目、ウキビシ科）が多数打ち上げられており、約100個体ほど拾い集めました。

ウキツノガイ *Creseis actiucula* (Rang, 1828) は、ウキビシガイや、カメガイ類と同様に、浮游生活をおくる巻貝の1種で、後端が細くなる針状の透明な殻を有しています。殻の長さは最大で約30mmに達します。

本種や、ウキビシガイ、カメガイ類などは、翼足類とも呼ばれ、チョウの翅のような足を使って活発に泳ぎます。“泳ぐ”と書きましたが、それは魚類が泳ぐというものではなく、海水中で、沈降してしまわない程度に動きまわる、という感じでしょうか（参照：自然史しずおか第46号、2014年）。

ウキツノガイは、世界の温帯水域～熱帯水域の表層や亜表層に生息しており、外洋水の入る湾内にもしばしば現れるといわれます。この時、台風等の大きな波があると、浜に打ち上げられる、というわけです。

他の地域でも、ウキツノガイの大量打ち上げの記録があります。

1999年には、岡山県笠岡諸島の沿岸域や漁港内での大量発生が記録され、2007年には、青森県むつ市の芦崎の砂浜での多数の打ち上げが記録されています。さらに、古い記録ですが、1978年には、秋田県～山形県沖での中層トロール網（水深100～200m）での調査で、ウキツノガイの極めて濃密な分布が記録されています。それは、海水1立方メートル当たり、少なくとも1,500個体だったといわれています。

本種以外に、巻貝では、カゲロウマツムシ、ケシマツムシ、キリオレなど、二枚貝では、アコヤガイ、ウミアサガイ、イナミガイ、カノコアサリの1種、オキナマツカゼなどが確認されました。また、ムギガイ、ナミマガシフ、チドリマスオガイなどは、いつもどおり打ち上げられていました。

三保真崎灯台付近では、筆者はこれまでに280種余の海産貝類を確認しており、この浜には様々な貝類が漂着していると思われる。